

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2009年23週(6月1週6/1~6/7)
2009年5月報

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)
<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>
E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp
連絡先: 052-910-5619(企画情報部)

今週の内容

トピックス

新型インフルエンザ(A/H1N1)

定点医療機関コメント

マイコプラズマ、感染性胃腸炎、インフルエンザ、溶連菌感染症、水痘等

全数把握感染症発生状況 ()内は件数。

結核(26)、腸管出血性大腸菌感染症(5)、A型肝炎(1)、レジオネラ症(1)、アメーバ赤痢(1)、ウイルス性肝炎(2)、クロイツフェルト・ヤコブ病(1)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)、後天性免疫不全症候群(5)、梅毒(1)、新型インフルエンザ(3)

2009年5月報

名古屋市感染症情報(5月後半)

WHO 疫学週報抄訳

2009年5月22日(84巻21号)

新型インフルエンザ A/H1N1 人感染;メキシコその他の流行国における臨床像

ハンセン病;イエメンにおける届出推移 1982 - 2008年

2009年5月29日(84巻22号)

インフルエンザパンデミーの激烈度評価
食品由来疾患の疾病負担試算

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

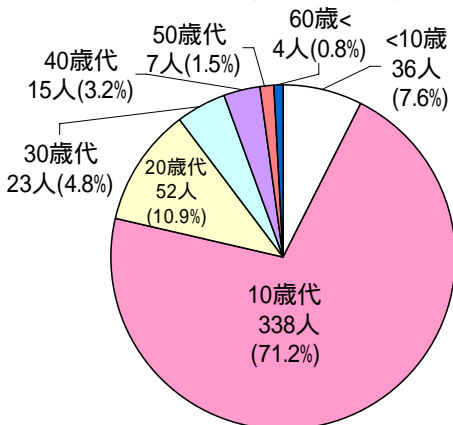
「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf> をご覧ください。

トピックス

新型インフルエンザ(A/H1N1)

6月10日現在の累積患者数(国内発生分、検疫8人を除く)は475人(男296人、女179人)です。6月10日日本時間午後3時現在におけるWHO発表の患者確定例(報告数)は、米国(アメリカ)13,217人、メキシコ5,717人、カナダ2,446人、チリ1,694人、オーストラリア1,224人、英国(イギリス)666人、日本485人、スペイン331人、アルゼンチン235人、パナマ221人となっています(報告数の多い10か国)。

図1 新型インフルエンザ患者(国内発生分) 年齢層別内訳(6月10日現在)



【参考ページ】

症例定義(5月22日再改定)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/syoureiteigi090522.pdf>

届出様式(5月9日改定)

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/zensu_youshiki090509.pdf

新型インフルエンザウイルスについて(5月12日更新)

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/new_inf2.html

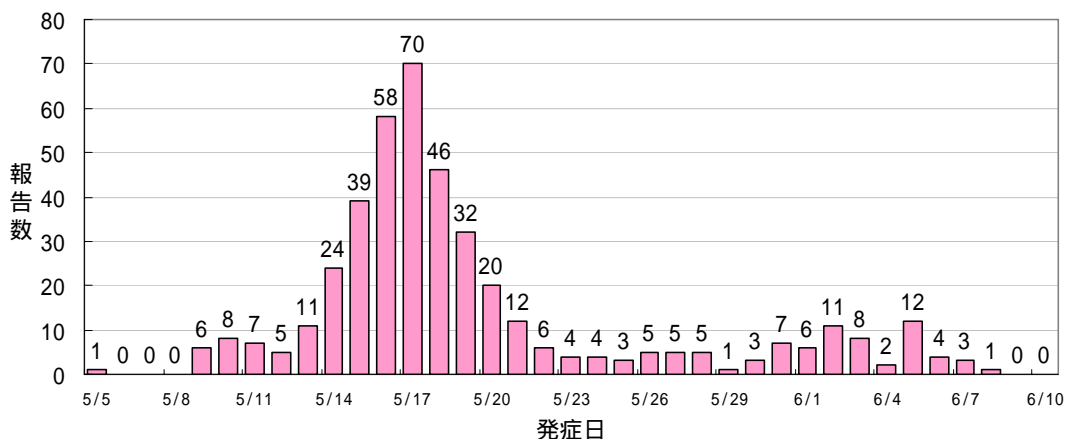
「新型インフルエンザ」ウイルス学的検体採取について(5月12日更新)

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/new_inf.html

愛知県の新型インフルエンザ(インフルエンザA/H1N1)対応について

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/new_inf2009_3.html

図2 新型インフルエンザ患者(国内発生分) 発症日別報告数(6月10日現在)



定点医療機関コメント(名古屋市除く)

尾張西部地区

軽症ですが、感染性腸炎が目立ちました。
水痘、溶連菌感染症もやや多いようです。
【一宮市 あさのこどもクリニック】
マイコプラズマ感染症 4名
【一宮市 ささい小児科】
マイコプラズマ感染症 8名
【一宮市 城後小児科】
インフルエンザのA型は6歳、B型は3歳です。
【一宮市 水野医院】

水痘が目立ちます。
成人の溶連菌感染者が2~3人/週で見られます。
【犬山市 武内医院】
感染性胃腸炎、夏かぜ様疾患やや目立ちます。
溶連菌感染症やや減少。
インフルエンザB型、1名。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
溶連菌感染症、水痘多発。
【岩倉市 なかよしこどもクリニック】

尾張東部地区

溶連菌感染症、水痘急増しました。
インフルエンザようやくなりしました。
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
溶連菌感染症、アデノウイルス感染症がみられます。
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
インフルエンザBが少しずつ続いています。
水痘が続いています。
【春日井市 春日井市民病院】
B型インフルエンザ3例。
溶連菌感染症続発中。
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
水痘が続いています。
【小牧市 志水こどもクリニック】
溶連菌感染症、感染性胃腸炎が多いようです。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

68歳女 カンピロバクター(+)
24歳男 病原大腸菌O74(+)
カンピロバクター(+)
78歳男 病原大腸菌O25(+)
【半田市 医療法人林医院】
小児科なし
【半田市 半田市立半田病院】
インフルエンザB型 3歳女 1名
【東海市 こいで内科医院】
A群溶連菌感染症がやや多いです。
感染性胃腸炎が多いです。
嘔吐が主症状の症例が目立ちました。ほとんどウイルス性と思われます。
カンピロバクター陽性 1名(6歳女)
アデノウイルス感染症 3名(3、5、9歳)
【東海市 もしもしこどもクリニック】
カンピロバクター(+)
病原大腸菌O1(+)
病原大腸菌O6(+)
胃腸炎が増加中です。
【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

StrepA(+) 4歳女
E.coli(O1、O18) 8歳女
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
黄色ブドウ球菌 1名
マイコプラズマ 2名
【豊田市 すくすくこどもクリニック】
病原大腸菌O1(+) 3歳男
病原大腸菌O1(+),カンピロバクター-8歳女
アデノ 2歳男、7歳男
アデノウイルス(+)
扁桃炎増えた気がします。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
特記すべきことはありません。
インフルエンザ感染症はありませんでした。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
アデノ(+) 2歳男
【岡崎市 にいのみ小児科】

インフルエンザB型 1名
【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】
インフルエンザB型 2名(1名はワクチン接種済)
【岡崎市 医療法人永坂内科医院】
溶連菌感染症が目立ちます。
【碧南市 永井小児クリニック】
ヘルパンギーナ、手足口病がでてきました。
【刈谷市 まついこどもクリニック】
マイコ気管支炎 3名(4歳2名、7歳1名)
【刈谷市 田和小児科医院】
ムンプスが流行中です。
【三好町 三好町民病院】
病大菌 10歳男 O18VT(-)
【幸田町 とみた小児科】
病原大腸菌O1 4歳男、O25 4歳男
【西尾市 やすい小児科】

東三河地区

A群溶連菌感染症が多い。
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
ヘルパンギーナが散発しています。
【豊橋市 あずまだこどもクリニック】

9歳はB 33歳はA
【豊川市 豊川市民病院】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2009年6月10日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedeki jun080512.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2009年23週報告数			2009年累計(1～23週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	11	3	1	355	99	53
豊田市	1			45	12	5
豊橋市	1			30	6	2
岡崎市				20	7	3
一宮	1	1		58	21	7
瀬戸	3			63	22	11
半田	1			21	6	2
春日井	1			40	17	6
豊川	1	1		26	11	5
津島	2			39	7	5
西尾				14	5	3
江南	1			48	11	7
新城				6	2	1
知多	1		1	35	12	7
師勝				18	7	
衣浦東部	2	2		61	20	15
合計	26	7	2	879	265	132

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	53歳	男	- / -	6 / 1	6 / 3	O157、VT1(+) 無症状病原体保有者
2	名古屋市	43歳	男	5 / 29	5 / 30	6 / 2	O157、VT1(+)
3	豊田市	35歳	男	6 / 1	6 / 1	6 / 5	O157、VT1(+) VT2(+)
4	半田	10歳	女	5 / 26	5 / 27	6 / 1	O103、VT1(+)
5	師勝	51歳	女	5 / 29	6 / 1	6 / 5	O157、VT1(+) VT2(+)

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

A型肝炎（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	知多	71歳	男	大韓民国

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	一宮	67歳	男	肺炎型	国内

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	豊橋市	69歳	男	腸管アメーバ症	経口感染	国内

ウイルス性肝炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	津島	50歳	男	B型	不明	不明
2	衣浦東部	29歳	女	B型	不明	国内

クロイツフェルト・ヤコブ病（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型
1	名古屋市	42歳	男	ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー病

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	衣浦東部	42歳	男	国内

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	35歳	男	AIDS	性的接触	ナイジェリア
2	名古屋市	41歳	男	その他	性的接触	国内
3	春日井	27歳	女	その他	性的接触	不明
4	津島	35歳	女	無症候性キャリア	性的接触	国内
5	衣浦東部	44歳	男	その他	性的接触	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	師勝	27歳	女	無症候	性的接触	国内

新型インフルエンザ等感染症

新型インフルエンザ(H1N1)

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域	備考
1	江南	40歳代	女	アメリカ合衆国（ハワイ）	22週報掲載分・再掲（確認日6月1日）
2	瀬戸	20歳代	女	アメリカ合衆国（フロリダ州・オーランド）	22週報掲載分・再掲（確認日6月1日）
3	豊川	30歳代	女	アメリカ合衆国（ハワイ）	22週報掲載分・再掲（確認日6月2日）

5月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況 [診断日に基づく集計。()は無症状病原体保有者再掲。]

2008～2009年に報告のあった 疾病名および病型 ()内は全数把握対象疾病数		2009年5月			2009年 累計 <愛知県全体>	2008年 総計 <愛知県全体>
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体		
一類 (7)	発生報告なし	0	0	0	0	0
二類 (5)	結核	104 (14)	57 (11)	161 (25)	829 (123)	2,054 (331)
三類	コレラ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
(5)	細菌性赤痢	3 (0)	1 (0)	4 (0)	8 (0)	14 (0)
	腸管出血性大腸菌感染症	1 (0)	4 (1)	5 (1) #	18 (6)	167 (32)
	腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	4 (1)
	パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)
四類	E型肝炎	0	0	0	1	1
(41)	A型肝炎	0	0	0	3	4
	エキノкокクス症	0	0	0	0	1
	オウム病	0	0	0	1	0
	Q熱	0	0	0	0	1
	つつが虫病	0	0	0	0	6
	デング熱	0	0	0	1	12
	日本脳炎	0	0	0	0	1
	ブルセラ症	0	0	0	0	2
	マラリア	0	0	0	0	6
	レジオネラ症	0	0	0	10	57
五類	アメーバ赤痢	2	0	2	23	58
(14)	ウイルス性肝炎	2	1	3	7	15
	内訳 B型	2	1	3	6	15
	内訳 C型	0	0	0	1	0
	急性脳炎	0	0	0	2	10
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	1	3	5	8
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	1	5	10
	後天性免疫不全症候群	1	7	8	39	109
	内訳 無症候性キャリア	0	3	3	22	55
	内訳 AIDS	0	3	3	13	47
	内訳 その他	1	1	2	4	7
	ジアルジア症	0	0	0	1	1
	梅毒	2	1	3	16	69
	内訳 無症候	2	0	2	7	26
	内訳 早期顕症	0	1	1	9	40
	内訳 晩期顕症	0	0	0	0	2
	内訳 先天梅毒	0	0	0	0	1
	破傷風	1	0	1	2	12
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	1	6
	風しん	0	0	0	3	3
	麻疹	2	2	4	14	198
	総計	120	75	195	992	2,832

#; 026; 1件、0103; 1件、0157; 3件

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名	2009年5月			2009年 累計	2008年 総計
		愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア	94	55	149	675	1,890
	性器ヘルペスウイルス感染症	30	20	50	243	693
	尖圭コンジローマ	29	22	51	187	502
	淋菌感染症	26	28	54	272	789
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	55	16	71	422	1,203
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	27	1	28	69	106
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	1	5

感染症の類型及び定義(感染症法)

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (5疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。鳥インフルエンザ(H5N1)が平成20年5月12日の法改正により従前の四類感染症鳥インフルエンザから除かれ、二類感染症に追加された。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (41疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症 (41疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

今回の通勤路の季節の花は立葵(タチアオイ)です。ベストセラーになった「西の魔女が死んだ」の作者のエッセーを読んでましたら、「タチアオイの花が一番上まで咲くと梅雨が明ける」という言い伝えが出てきました。今、まんなかあたりが咲いています。蒸し暑くなりました。梅雨明けが待ち遠しい毎日です。いつも貴重な情報をありがとうございます。5月後半のまとめをお送りします。

名鉄病院福田先生からは外来ではヘルパンギーナとアデノウイルス感染症が目立ち感染性胃腸炎は非ロタウイルス性が主体でカンピロバクターが増加傾向。ムンプス、水痘も多くなっているが例年どおり、入院では急性咽頭炎(ヘルパンギーナ、アデノウイルス感染症)の重症例と感染性胃腸炎が主体で、マイコプラズマによる気管支炎・肺炎が一定数あり、ムンプス髄膜炎が増加傾向、城北病院濱嶋先生からは外来では夏カゼ(発疹症を含む)が目立ちインフルエンザBが数名、入院では特に目立つものなし、第二日赤岩佐先生からは特に目立つ感染症はない、三菱病院入山先生からは外来では感染性胃腸炎1名(入院)、ムンプス1名、発熱、呼吸器症状のある患児は全員インフルエンザ(-)入院では気管支炎~肺炎(マイコ含む)7名、突発疹(扁桃炎合併)1名、中京病院柴田先生からは溶連菌感染症、ムンプス、水痘が散見、入院ではマイコプラズマ肺炎と胃腸炎が目立つ、労災病院小児科からは外来で目立ったのはインフルエンザBが2名、水痘、ムンプス、溶連菌感染症がぼつぼつとぎれずに来院、入院ではウイルス性胃腸炎(ロタがまだいる)肺炎(マイコ、C・ニューモニエ以外)が目立つ、大同病院水野先生からは外来数は比較的多くムンプス、水痘が増加、嘔吐下痢症は減少、インフルエンザBが時々いて肺炎(RS,マイコプラズマ)が多い。溶連菌感染症散見、入院では溶連菌感染後の急性糸球体腎炎やRS等による肺炎の入院がまだ続き(いつまで続くのでしょうか)季節性とは無関係だが尿路感染症の乳児がかなりの頻度であり要注意、新生児発熱者(ウイルス性)など数名入院、とのお手紙でした。有難うございました。

2009年5月22日(84巻21号) <http://www.who.int/wer/2009/wer8421/en/index.html>

人の新型インフルエンザA(H1N1)感染。メキシコと他の流行国における臨床的所見。

本報は新型インフルエンザA(H1N1)の人感染例の臨床像と治療に関する最初のWHOガイドラインである。

- (1) 臨床像：無熱で軽い上気道症状だけの例から重症・致命的肺炎まで幅が広い。多くの例は合併症なく自然治癒するインフルエンザ様疾患の経過をとり、報告されている症状は咳、発熱、咽頭痛、倦怠、頭痛である(表あり)。外来患者や入院患者でも治癒例6例に1例までが発熱していない。悪心嘔吐、下痢(あたりなかつたり)などの消化器症状が米国の外来患者の38%に及んでいる。
- (2) 入院患者：確認例で入院したのは米国、カナダで2~5%、メキシコで6%。メキシコで急性呼吸器症状で加療された例の13%がA(H1N1)陽性(約1/5が季節性インフルエンザに罹患していた)そのうち約10%が要入院、入院患者の1/3が人工換気を必要とした。米国の入院患者の約1/2、メキシコの入院患者中データが得られた死亡例45例のうち21例(46%)が妊娠とか喘息など肺疾患、糖尿病、高度の肥満、自己免疫疾患、免疫抑制治療中、神経系や循環器疾患を基礎疾患として持っていた。米国のA(H1N1)確認妊婦20名中3名が入院を要し、1

名死亡（この例は発病 13 日目にタミフル投与）米カリフォルニア州の入院例 30 例の 64%が基礎疾患をもち、妊婦 5 例のうち 2 例に自然流産とか早期破水がみられた。メキシコの死亡例 45 名中 54%がそれまで健康であり、殆どが 20～50 歳（1 例が妊娠 34 週の妊婦）罹患死亡率（CFR）は成人より小児や 10 代青年が低かった（表あり。理由不明）。急速に進行する呼吸障害が重症ないし死亡例の特徴であった。メキシコの死亡例 45 例の発病～入院の日数の中央値は 6 日（分布 1～20 日）それに対し米国の入院例では発病～入院の日数の中央値は 4 日。症状としては発熱、息切れ、筋痛、重い倦怠、頻脈、多呼吸、動脈血酸素飽和度低下、時に低血圧とチアノーゼあり、数例に病院到着直後に心停止がみられた。下痢は入院例では稀で、重症肺炎の胸部放射線像著明、呼吸速迫症候群、腎不全、多臓器不全（死亡例の 24%）の経過をとり、発病～死亡の日数中央値は 10 日（分布：2～33 日）であった。カリフォルニア州の入院例で確定 25 例では 15 例（60%）に放射線像で肺炎を示唆する所見があり、4 例で人工換気が必要であった。入院例では白血球増多・減少共にみられ、メキシコの入院例では多くがリンパ球減少、アミノトランスフェラーゼ上昇、LDH 上昇（死亡例全例）、CPK 高値例もあった。入院例の半数以上である程度の腎機能不全が認められた。心筋炎合併を疑われた例もあったが脳炎合併例はなかった。

- (3) 微生物学・病理学的所見：入院時の細菌感染合併例はほとんどなく、膿胸、壊死性肺炎や人工換気に合併した細菌感染が時に認められるが少なく、メキシコの死亡例の病理所見はウイルス性肺炎による急性呼吸速迫症候群と一致していた。
- (4) 新型 A (H1N1) インフルエンザの WHO の最初の治療ガイドライン：a) 軽症 = 保存的。小児ではアスピリンなどサリチル酸製剤を使用しないこと（ライ症候群）。b) 入院例 = タミフルによる治療を推奨。重症入院例は A (H5N1) ガイドラインを応用。c) 呼吸補助 = 酸素吸入、人工換気。d) 抗生剤 = 地域の市中肺炎の状況に合わせて抗生剤選択。e) 抗ウイルス剤 = タミフルの早期投与が予後改善。メキシコの死亡例 27 例の発病～タミフル投与開始までの平均日数は 8 日（分布 1～26 日）だった。f) ステロイド剤 = 無効の例が多く、推奨しない。

ハンセン病。イエメンの患者数推移。1982 年～2008 年。

イエメンのハンセン病制圧国家計画は 05 年に発足、WHO はハンセン病疾患負担軽減世界作戦 06～10 年を展開中で、本報はそのひとつである。

- (1) 年別新規例数の推移：82～08 年の新規届出数を解析（表あり）。多菌型、性別、小児例、2 度以上の障害例の分類を実施。初期の 82～83 年から、90 年に患者発見強化、93 年に新規例数最多、年間 721 例、人口 10 万当り 5.1 であった。
- (2) 診断アクセス：居住地から診断医療機関までが 50km 以上あるような例が増加、アクセスの改善が認められた。
- (3) 村落調査、プライマリヘルスケアセンターからの紹介、患者接触者の調査、患者の自発的届出によっている（以下 4～7 については年別グラフ、表あり）。
- (4) 新規例の多菌型ハンセン病年別頻度：55～65%と変動。
- (5) 新規例中の小児例：97 年 45%～08 年 73%と変動。
- (6) 男女比：女性患者数は調査期間を通じて新規例のほぼ 1 / 3。
- (7) 新規例中の 2 度障害者例数：98 年 117 例が最高。変動が大きい。
- (8) 結語：サーバイランスの運営は順調。排除の努力が実ることが期待される。

2009 年 5 月 29 日（84 巻 22 号）<http://www.who.int/wer/2009/wer8422/en/index.html>

インフルエンザパンデミーの激烈度評価に関する考察。

WHO のパンデミーのフェーズ決定はパンデミックウイルスの地理的広がりに基づき、世界各国に警告、対策を呼びかけてパンデミーに伴う罹患・死亡を減少させることを目的にしている。パンデミーの激烈度(Severity)は各種の要因が関与している：国により、集団により違いがあるので過去の事例が当てにならない。激烈さは事例により異なるので症状、合併症、伝播力、

病原性などの監視が基本となる。 激烈度評価が上手く出来るかは病原性や流行集団に関する情報に左右されるが、流行開始時期には情報不足が多い。 さらに罹患死亡率（CFR）のような激烈度の重要なパラメーターには患者数と死亡者数が判明するまでの時間が必要である。

(1) 激烈度の決定要因：

パンデミックウイルスの疫学的特性：疑い例、確定例、死亡例の例数、年齢、性別、基礎疾患の有無、罹患率と CFR など。

臨床的特性：症状、経過と転帰、要入院例か軽症か。

ウイルス学的特性：抗ウイルス剤感受性、ウイルスの分子学的マーカー、抗原性（一覧表あり）

(2) パンデミックウイルスの集団への侵襲度（Vulnerability、傷つきやすさ）：

免疫度 = 過去の流行で高齢者集団がある程度の免疫がある場合。

ハイリスク集団 = 乳幼児、高齢者、妊婦、循環器・呼吸器系疾患や糖尿病患者、HIV 感染を含む免疫不全者、悪性腫瘍患者。途上国においてはこうした疾患の実情が把握出来ていないし低栄養やマラリア、結核の蔓延も問題となる。

WHO は最近、侵襲度のアセスメント手段の開発を進めている： a) 保健活動と適切な治療。 b) 適切な情報活動・社会活動。 c) 計画立案・準備進捗。

食品由来疾患(food borne diseases) の世界的負担 (Global burden) 試算：共同研究努力。

病原体感染や毒物汚染食品による疾病の社会経済活動上の損失は重要であるが明確にされていない。WHO の食品由来疾患の疾病負担 (disease burden) 試算作業の目的はこの食品由来疾患の医療経済学的な健康情報を豊かにすることであり、国際共同研究を呼びかけることである。WHO は各国の実務担当者(Stakeholders)による共同作業召集、現在欧州地域で 30 カ国近くが参加して 18 以上の疾患について欧州疾病対策センター (欧州 CDC) における研究が開始されている。本報は 09 年に発表された欧州 CDC 報告の紹介である。

<http://www.eurosurveillance.org/ViewArticle.aspx?ArticleId=19195>

- (1) 食品由来疾患の疾病負担：単なる疾患サーベイランスではなく、疾病負担の考え方として疾病により失われた生活年で表現される Disability-adjusted life year、DALY を導入すること。
- (2) 食品由来疾患の世界的負担試算の理由：食品市場のグローバル化が大きな理由としてあげられる。
- (3) 食品由来疾患疫学レファレンスグループ (Foodborne Disease Burden Epidemiology Reference Group、FERG)：マラリア監視評価レファレンスグループや小児健康レファレンスグループなど WHO 専門家レファレンスグループの活動を参考として発足 (WHO 事務局、FERG 親委員会、助言委員会、5 作業部会の関係を示すグラフあり)。
- (4) 共同者：WHO の小児思春期保健部門や軽視された熱帯病(neglected tropical disease)コントロール部門、公衆衛生・環境部門など。
- (5) 外部の実務担当者との共同：EU など諸国の担当者参画。
- (6) 実務担当者とのイベント：08 年 11 月、第 2 回 FERG 会議実施。
- (7) 欧州 CDC との協力：WHO との共同作業進捗中。
- (8) 結語：世界疾病負担試算に DALY の概念導入が重要である。

Dracunculiasis (ギニア虫、メジナ虫。前抄訳 20 号参照)の月報 09 年 1~4 月。

新規例報告。土着国ではスーダンが圧倒的に多く 1,243 例、次いでガーナ (131 例)、マリ 69 例。月別報告数一覧表あり。

